

# Mich

Minoh City Hospital  
2011.3 Vol.23



ミツマタ (エキスポ90箕面記念の花)

<http://www.minoh-hp.jp>

編集発行：箕面市立病院 患者サービス・広報委員会 ☎ 072-728-2001 (内線2206)

## INDEX

- |                       |            |                    |          |
|-----------------------|------------|--------------------|----------|
| 1. 地域医療支援病院として承認されました | —— P.1     | 5. Wave of Nursing | ———— P.6 |
| 2. 地域医療室だより           | ———— P.2   | 6. 新任医師紹介・みなさまの声   | ———— P.7 |
| 3. 新しい医療機器を導入         | ———— P.3   | 7. クリスマスコンサートを開催   | ———— P.7 |
| 4. 地域連携バスによる共同診療      | ———— P.4.5 | 8. 「医療・看護フェア」のご案内  | ———— P.8 |

## 箕面市立病院が「地域医療支援病院」として承認されました

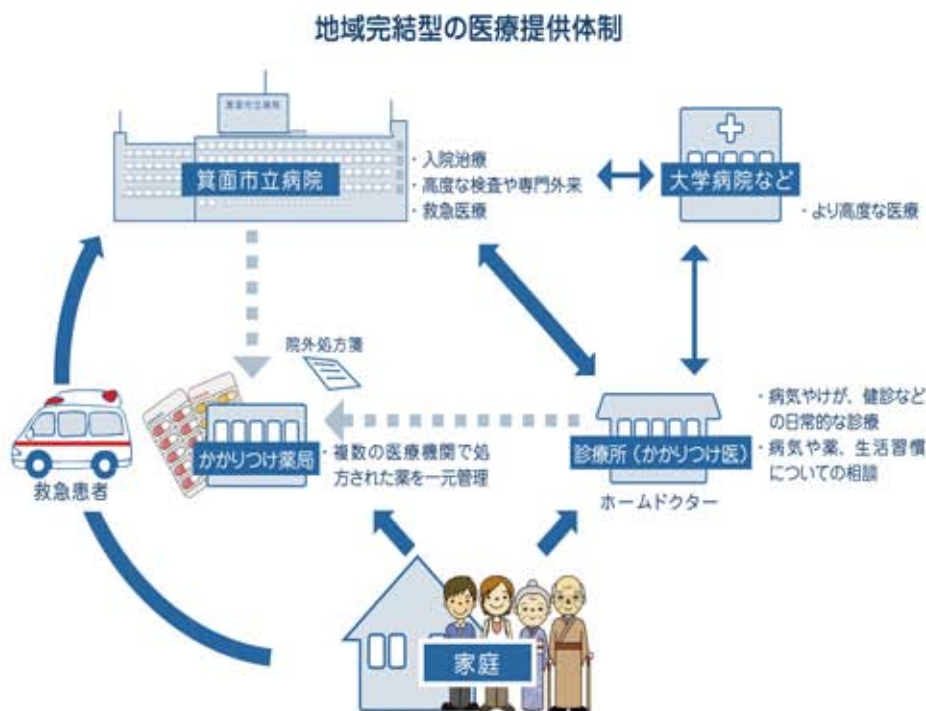
昨年11月19日付けで、当院が、地域完結型医療の中心的役割を担う「地域医療支援病院」として大阪府知事から承認を受けました。

これを機会により一層、地域の医療機関との連携を強化し、信頼される病院として地域医療の充実に取り組んでまいります。

### 地域完結型医療をめざして

地域のかたが、病気になった時に安心して満足いく治療を受けていただくために、医療機関がそれぞれの専門性を活かし、図のような役割分担をして診療する体制をつくることをめざしています。

このように、地域の医療機関全体が相互にしっかりと連携することで、あたかも一つの病院としての機能を持ち、切れ目のない医療を提供する体制を地域完結型の医療体制といい、この体制の中心的役割を担うのが「地域医療支援病院」です。



### 地域医療支援病院の役割

地域医療支援病院は、病気のかかり始めの時の診療や相談を担うかかりつけ医を支援し、地域医療の充実を図る病院として、医療法第4条に基づき都道府県知事から承認される病院のことです。平成22年12月現

在、全国8,665病院のうち、地域医療支援病院は全国で293病院あり、そのうち大阪府内では23病院が承認されています。

当院は地域医療支援病院として、次の役割を担っていきます。

- ①かかりつけ医からの紹介患者に対する診療を軸とした、入院医療、高度な検査、専門外来の提供
- ②入院患者のかかりつけ医との共同診療や、検査機器などの病院施設の共同利用
- ③24時間の救急医療の提供
- ④地域の医療従事者に対する研修の実施による地域全体の資質の向上



### かかりつけ医と連携して診療を行います

地域完結型医療においては、特にかかりつけ医の役割が重要です。そのため、当院は、かかりつけ医との連携に重点を置き、かかりつけ医からの紹介患者のかたを優先した診療を行っています。

地域のみなさまには、かかりつけ医をお持ちいただくことをお願いします。

当院を受診される場合は、かかりつけ医からの紹介状をお持ちください。紹介状には、患者さまの病状やこれまでの治療経過や検査結果、お薬の内容などが記載されており、検査などの重複を避けるとともに、かかりつけ医からの切れ目のない適切な診療を受けていただくための大切な情報が記載されているからです。

なお、救急患者のかたは紹介とは関係なくER（救急総合診療部）で診療いたします。

## 地域医療室だより

### かかりつけ医との連携窓口として

地域医療室は、患者さまに効率的で継続性のある医療の提供ができるように、患者さまの日常の診療を受け持つかかりつけ医と当院を結ぶ窓口として機能しています。

特に、かかりつけ医と当院との連携を円滑に進めていくための連携医療機関（医師）登録制度（平成23年2月末現在286機関）については登録の拡大を図るとともに、意見交換会・研修会を開催し各種情報提供等の充実に努めています。また紹介入院された患者さまを登録医療機関の先生と当院の医師とで共同診療する開放病床の利用促進にも努めています。かかりつけ医から予約をお受けする診療や検査の増大、また特定の疾患に対し連携計画書を用いて継続治療・経過観察を

行う地域連携バス（※P.4.5参照）の運用の充実を図り連携強化をしたいと考えています。

こうした取り組みを続けることが、当院とかかりつけ医の先生方との連携をより綿密で強力なものにし、ひいては地域のみなさまが安心できる医療体制を築くことにつながるものと考えています。

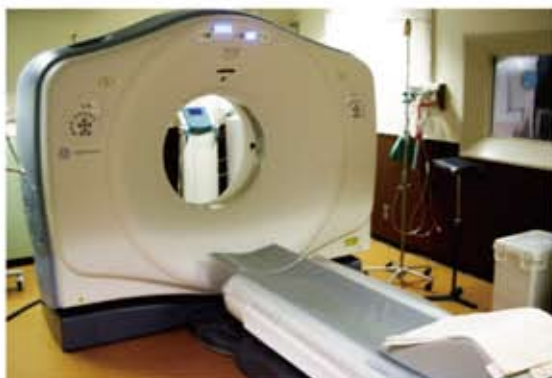
連携医療機関には→このプレートをつけていただいています。



# 新しい放射線機器を導入

## 中央放射線部

中央放射線部では、平成22年12月に64列マルチスライスCT装置および血管造影撮影装置を導入しました。



64列CT

### 64列マルチスライスCT装置

64列マルチスライスCTは、体の広範囲を短時間かつ高精細に撮影することが可能だけでなく、新しい撮影技術により画質が劣化することなく、使用するX線量を低減することが可能となりました。

また、今まで外来診療ではできなかった心臓血管の評価が、この装置で冠状動脈造影CT検査を行うことにより可能となりました。従来、入院によるカテーテル検査でしか確認することができなかった冠状動脈の狭窄を外来でも行え、また患者さまの検査による身体的負担を大幅に軽減することができるようになりました。(※ただし、患者さまの病状や症状によっては検査できないこともあります。)



←冠状動脈CT画像



↑腹部血管CT画像



←下肢動脈CT画像

CT検査は頭部から足の先までの全身の血管・臓器・骨の検査が可能です。

検査時間は、造影剤を使用しない検査であれば5分程度、造影剤を使用する検査であれば15～20分程度です。今回の導入によりCT装置が2台体制となり、検査の待ち時間の短縮にもつながりました。

### 血管造影撮影装置

血管造影撮影装置は、高画質なFPD(フラットパネルディテクタ)を搭載した装置に更新しました。血管造影撮影検査(アンジオグラフィ)は、カテーテルと呼ばれる直径数mmの細い樹脂製チューブを足の付け根や腕の血管から挿入して目的の血管や臓器まで進め、造影剤を使用してX線撮影を行います。これにより、血液の流れ、血管の走行や形状(狭窄・閉塞・動脈瘤・出血)、臓器や腫瘍の血流動態などがわかります。また、冠状動脈狭窄部の拡張(PCI)や腫瘍に対しては化学療法を併用した塞栓術(TACE)などを行い病変部の治療を行います。

当院では心臓・腹部臓器などの血管や臓器および四肢血管の撮影・治療を行っています。

検査時間は、臓器や治療の内容により異なりますが、検査のみであれば1時間前後、治療を伴う場合は2～3時間前後が目安となります。



←血管造影撮影装置



血管造影撮影カテーテルなど

検査を希望される場合は、かかりつけ医にご相談ください。

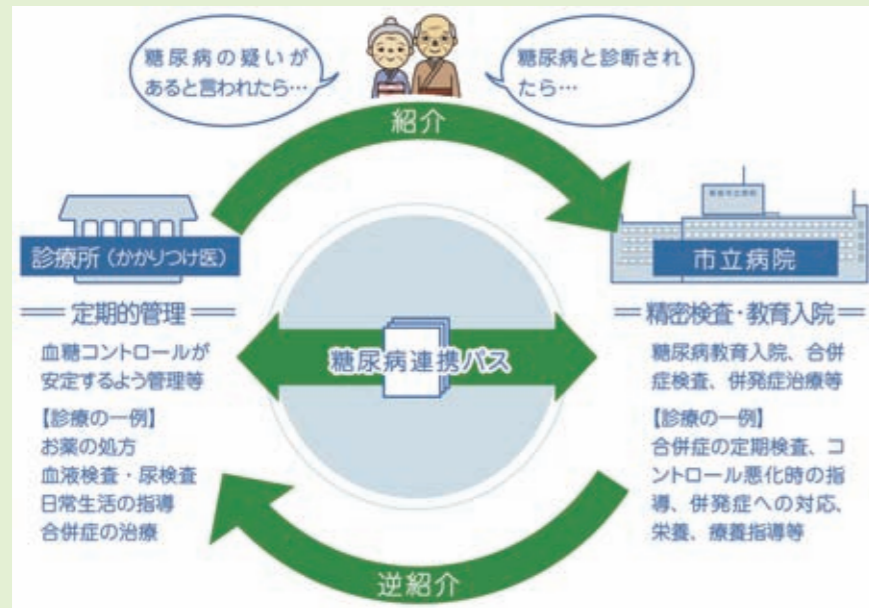
# 地域連携クリティカルパスによるかかりつけ医と市立病院との共同診療

## 糖尿病地域連携パス

糖尿病地域連携パスは、糖尿病治療の中断防止、良好な血糖コントロールおよび合併症発症・進展防止を目的とし、地域ぐるみで計画的に糖尿病診療・療養を実践するシステムです。

現在、13の開業医（かかりつけ医）と連携し、診療を行っています。

### 市立病院と開業医（かかりつけ医）の役割分担



### 地域連携パスでの治療の対象となるかた

- ①新規発症（HbA1c（現在使用しているJDS値） $\geq 6.1\%$ ）のかた
- ②血糖コントロールが不良（HbA1c 8.0%以上）な場合
- ③血糖コントロールが不安定な場合
- ④緊急性が高い場合
- ⑤合併症検査が必要なかた
- ⑥その他、主治医が必要と判断した場合

### 糖尿病連携パスによる治療を希望されるかたへ

糖尿病連携パスによる治療を希望されるかたは、かかりつけ医にご相談ください。また、逆にかかりつけ医や市立病院の医師からご紹介させていただく場合もあります。



## 地域連携クリティカルパスとは

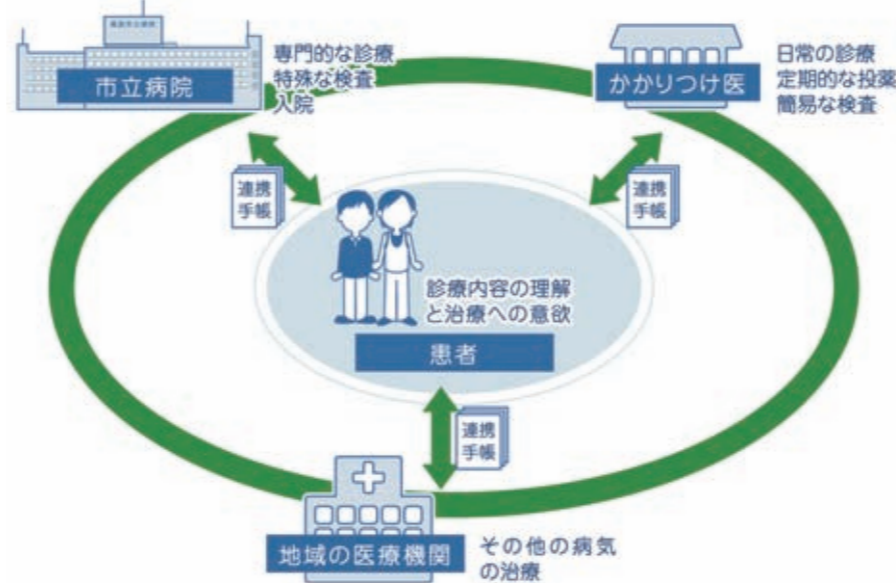
地域連携クリティカルパス（地域連携パス）は、かかりつけ医と市立病院の医師が共同して、共通の治療計画書（地域連携診療計画書）により患者さまの治療を行うシステムのことで、

### 地域連携パスのメリット

- かかりつけ医と市立病院の双方が、地域連携診療計画書に基づき、患者さまの診療情報を共有するので、スムーズな連携により切れ目のない診療を行うことができます。
- 検査や薬などの重複を避け、安全な治療を受けていただくことができます。
- 患者さまご自身が治療内容を理解し、目標達成に気持ちを向けることができます。

大阪府では、保健医療計画において地域連携パスの導入促進を位置づけ、4疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）の全てに対し、平成24年度までに府内の15%の病院で導入されることをめざしています。

当院でも、豊能医療圏内の病院や保健所などと連携し、地域連携パスの作成に取り組んでいます。現在、糖尿病とがんの地域連携パスを実際に運用し、かかりつけ医と共同診療を行っていますので、ご紹介します。



## 連携手帳で診療に関する情報を共有します

地域連携パスでの治療を受けられるかたには連携手帳をお渡ししています。かかりつけ医と市立病院の医師が、役割分担を含め診療内容について手帳を基に患者さまに提示・説明することにより、患者さまに安心して医療を受けていただくことができます。

また、患者さま、かかりつけ医、市立病院のそれぞれが、この手帳に必要事項を記載し、情報共有、情報交換を行います。

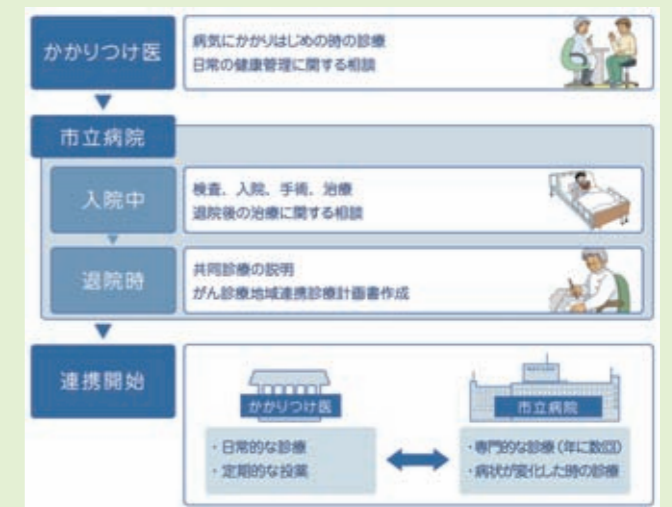
医療機関に受診の際には、必ず連携手帳を持参してください。かかりつけ医や市立病院以外の医療機関にかかる場合でも、手帳を提示することで、現在の患者さまの状態を把握できるとともに、検査や投薬の重複を避けることができます。

## がん診療地域連携パス

がん診療地域連携パスは、がんの手術などの専門的な治療を行った後に、かかりつけ医と市立病院が共同して診療を行うための5年先までの診療計画をまとめたものです。

この診療計画を連携手帳として患者さまにお渡ししています。患者さまは、この手帳を「私のカルテ」としてお持ちいただくことで、「いつ」「どこで」「どんな」診察や検査を受ければよいかわかります。現在、26の開業医（かかりつけ医）と連携して診療を行っています。

### がん診療地域連携パスでの診療の流れ



### がん診療地域連携パスの対象となる疾患

当院では現在、大腸がん術後連携パス、胃がん術後連携パス、肺がん術後連携パス、前立腺がん術後連携パス、膀胱がん術後連携パスの5つの疾患で連携パスを作成し運用しています。

地域連携診療計画の一例（大腸がん）

大腸がん術後連携パス(1~6ヶ月)		連携手帳					
項目	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月	4ヶ月	5ヶ月	6ヶ月	備考
術後経過観察	○	○	○	○	○	○	
検査							
治療							
併発症							
生活指導							
その他							

○:必須項目 △:必要時に付きます

※かかりつけ医で採血し、箕面市立病院に送付をお願いします。

～メモ～

\*あなたが手術を受けた日 平成 年 月 日

# Wave of Nursing

## 認定看護師紹介 その3 「感染管理認定看護師の活動紹介」

チーム医療推進部 ICT  
感染管理認定看護師 四宮 聡

当院では、現在（平成23年3月現在）認定看護師が7名おり、毎年さまざまな専門領域での看護の質の向上を図っています。今回は、感染管理認定看護師の活動についてご紹介します。

### 院内感染と感染管理チーム (ICT)

「院内感染」という言葉は、皆さんも一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。ある調査では、約6割のかたが院内感染は防止できると思うと答えたそうです。では、院内感染の定義はご存知でしょうか。見直す必要があるとの指摘がありますが、一般的には、「入院後48時間以降に発生する感染症」と定義されています。この定義から判断すると、潜伏期間がある疾患や高度医療が可能になった現在では、院内感染を完全に防ぐ（ゼロにする）ことはほぼ不可能だと考えられています。しかしながら、減少させる努力は必要であり、その目的に沿う活動をしているのが、感染管理チーム (Infection Control Team: 以下 ICT) です。

### 感染管理認定看護師の役割

感染管理認定看護師の役割は、ICTの中心的な存在として活動し、患者さまと職員を感染から守ることです。活動は、①ICTによる院内回診 ②感染対策教育・啓発活動 ③感染症発生動向調査が基本です。さらに、専門的知識を用いて個々の患者さまの感染対策について各部門からコンサルテーションを受け、一緒にケアをしたり、感染症流行期には、対策の啓発と流行状況について情報提供を行い、院内での感染症拡大を未然に防ぐよう努めます。感染管理は、全体の管理的要素が多分に含まれることから病棟勤務ではなく、専従という立場で活動を展開しています。

### 実際の活動

①院内回診 毎月2回行います。回診では、感染症治療の方針や感染対策について多職種で協議し、病棟を巡視の上、対策の実施状況を確認します。必要があれば、個別の感染対策について指導します。



②感染対策教育活動・啓発活動 昼食休憩を利用したランチオンセミナーをはじめとして新規採用者研修、手洗い研修、公開講座などを行い、感染対策の質の向上に寄与するために活動しています。中でも、ランチオンセミナーは、平成22年12月末で累計230回を数えました。



③感染症発生動向調査 発生状況を継続的に調査・分析し、改善策を講じるために実施しています。当院では、抗菌薬が効きにくい薬剤耐性菌、手術部位感染（術後感染）などを調査しており、厚生労働省にも報告しています。この活動は、第三者機関からも高い評価を得ています。

このように、感染管理は、地道な活動の積み重ねですが、感染症の広がりを最小限にすることで本来の治療に専念し、安全で安心な医療が受けられるように、今後も活動を続けていきたいと思えます。



# 新任医師紹介



かなやま しんたろう  
**金山 慎太郎**

①眼科 ②平成10年卒

①所属科 ②卒年 ③自己紹介

③ 昨年11月から赴任しました。大学院、留学と6年半、主に研究に従事してまいりました。眼科スタッフを始めとして多くの方々の助けをかりて少しずつ慣れてきました。まだまだご迷惑をおかけすることもあると思いますが、眼の疾患に対してお役に立てればと思っています。これからも努力していく所存ですので、よろしくお願いいたします。



## ✕✕✕✕✕✕✕✕✕✕ ✕✕✕✕✕✕✕✕✕✕ ✕✕✕✕✕✕✕✕✕✕ ✕✕✕✕✕✕✕✕✕✕

当院では、みなさまから寄せられたご意見・ご要望をもとにサービスの改善に取り組んでいます。

いただいたご意見・ご要望の内容についてご紹介します。

- Q1.** 待合いの椅子の高さが低いものが多くひざの悪い者にとっては座り難い。高い椅子があれば助かります。
- A1.** 平成21年3月に外来待合い椅子で老朽化した物を一部買い替える際、坐位が高い椅子を購入いたしました。現在も低い椅子がまだ多くありますが、買い替えには坐位の高いものを選ぶようにいたします。
- Q2.** 傘入れ用の100円硬貨が手持ちになかったので、両替をお願いしたところ地下の売店でと言われた。大変不便。
- A2.** 千円札を百円硬貨に両替する両替機を正面玄関に設置しております。また一万円札の両替につきましては地下の売店にてお願いしております。ご案内を徹底するようにいたします。

## クリスマスコンサートを開催

平成22年12月22日(月)恒例のクリスマスコンサートを開催しました。

昨年に引き続き今回も職員による演奏を企画しました。100人近い患者さまやご家族のかたに集まっていただきました。

練習の成果を披露しようと緊張の面持ちのなか、ピアノやピオラにサククスなどによるコンサートが始まりましたが、コンサートが進むにつれ、見覚えのある職員の顔ぶれにカメラを向ける患者さまや、日頃、目にすることのない職員表情に笑いがおこり、いつのまにか緊張も

ほぐれ、あっという間の1時間でした。

最後は参加者全員でクリスマスソングを合唱し、大盛況のなか終了しました。



# 箕面市立病院開院30周年記念 「平成23年度 医療・看護フェア」のご案内

当院では、5月12日ナイチンゲール生誕にちなんで、毎年「医療・看護フェア」を開催しています。今年も5月12日(木)と13日(金)の2日間、「市民と築く救急医療」をメインテーマに、救急診療のあり方や救急でのさまざまな取り組みを中心に当院の活動などをご紹介します。

## プログラム

〈5月12日(木)〉

〈両日共通〉 ※申込不要

### ●一日看護師体験

看護師のユニフォームを着て、看護補助を体験します。

時間：午前10時～午後3時

定員：5名(先着順) ※要申込

### ●病院体験ツアー

日頃見ることのできない病院の裏側をご紹介します。

時間：午後2時30分～午後4時

定員：20名(先着順) ※要申込

### ●フードモデルを用いた栄養バランスチェック

実物大のフードモデルを使って、あなたの食事バランスを簡単にチェックします。

### ●救急蘇生とAEDの使用

実際にAEDを使用した救急蘇生を体験します。

### ●医療相談

箕面市医師会、市立病院の医師による相談

### ●介護相談 介護や介護保険などの相談

### ●薬事相談 お薬に関する相談

### ●リハビリ相談

日々の動作にお困りのことなどの相談

### ●保健師相談 高齢福祉サービスなどのご相談

### ●各種計測 体脂肪、骨密度など

〈5月13日(金)〉

### ●講演会「市民と築く救急医療」

講師：箕面市医師会医師、市立病院医師、救急認定看護師、箕面市消防職員

時間：午後2時～午後4時

※手話通訳及び要約筆記を希望のかたは1週間前までに要申込

申込み・お問合せ

経営企画課 (電話728-2034 FAX728-8232)

〈昨年の様子〉



## 青空 (編集後記)

3月11日東北、関東を襲った超巨大地震には、津波とその惨状を見るにつけ、驚きを通り越すものがありました。被災地の皆さんには心からお見舞い申し上げますとともに、家族・友人・隣人の無事が少しでも早く確認できますことを、ただただお祈りするばかりです。

今号は、かかりつけ医(開業医)と市立病院の役割分担をして、地域の医療の確立・安定を図ろう、そして市民の安全・安心を持続させよう、そのためには患者・市民の皆

さまからのご理解・ご協力が必要であるということを中心にお知らせしました。よろしくご協力をお願いします。

今年は昭和56年7月7日にオープンして市立病院は30周年を迎えます。市民の皆さまから一層の信頼を得られる病院として成長してまいりたいと思います。

箕面の山も芽吹き始め、病院の庭にもいろいろな花が咲き始めました。(T. S)